

国指定史跡

よな ご じょう あと
米子城跡

鳥取県米子市

米子城 大小天守を持つ山陰

米子市の中心市街地、標高約90mの湊山(みなとやま)に築かれた米子城は、別名「久米城」(くめじょう)とも呼ばれ、安土桃山時代の天守と四重の副天守(四重櫓)の大小二つの天守を持つ壮麗な城で、周囲には中海の水を引き込んだ二重の堀が巡らされています。城内の建物は全て失われてしまいましたが、石垣や礎石などは当時の形態をよくとどめています。また、古文書や絵図なども数多く残っています。令和3年(2021年)には、江戸時代に米蔵が建ち並んでいた三の丸の一部が追加指定されています。

現在、米子城跡周辺は「湊山公園」として利用されており、大山や中海を一望できる天守台からの眺望は、絶景の城として多くの市民



「伯耆国米子城絵図」文久3(1863)年 山陰歴史館所蔵

米子城の歴史

米子城は、応仁から文明年間(1467年～1487年)に、山名宗之によって砦(とりで)として飯山に築かれたのが始まりと伝えられています。

現在、「城山」と呼ばれている湊山の近世城郭は、西伯耆の領主となった吉川広家(きっかわひろいえ)が、天正19年(1591年)に築城を開始したものとされています。しかし、慶長5年(1600年)の関ヶ原合戦に敗れた吉川氏は、完成した城を見ることなく岩国へ国替となり、替わって伯耆国18万石の領主となった中村一忠(なかむらかずただ)によって、慶長7年(1602年)頃に完成されました。

一忠の急死により中村氏が断絶すると、会見・汗入郡6万石の領主として加藤貞泰(かとうさだやす)が入城し、元和3年(1617年)には、鳥取藩主池田光政の一族、池田由之(いけだよしゆき)が米子城を預かり3万2千石となります。

寛永9年(1632年)には、鳥取藩筆頭家老の荒尾成利(あらおなりとし)が米子城預かりとなり、以後11代に亘って荒尾氏が管理していました。明治2年(1869年)に、米子城は士族に払下げられ、全ての建物が取り壊されました。



VRで復元された天守



二の丸表中御門



VR



発掘調査中の登り石垣



VRで復元された登り石垣

VRによって復元された建物

米子城の建物は、明治以前に失われてしまいましたが、石垣は良好に保存されています。スマートフォン等で「ストリートビュー」を見ると、VRで復元した当時の様子を見ることができます。

随一の名城

式に築かれはじめた、本格的な近世城郭です。山頂に五重
た。
云えられており、平成18年(2006年)に国史跡に指定されま
民に親しまれています。



上空から見た米子城と城下町(堀の位置を示す)



「米子御城内平面図」の三の丸 江戸時代末期 山陰歴史館所蔵



発掘された米蔵の建物基礎



Rで復元された表中御門

物

降に全て取り壊されてしまいま
れています。米子城を訪れてス
「ミュージアム」のアプリをダウンロー
時の米子城の姿を、リアルに見る

三の丸発掘調査の成果

三の丸の中心部は、江戸時代には米蔵が十数棟も建ち並んでいた場所ですが、発掘調査で地下に米蔵の基礎や石組水路などが良好に保存されていることがわかりました。1棟の米蔵の規模は、長さ30m、幅6mで、片側に庇(ひさし)が付く大規模な建物でした。石組水路は、内堀に向かって緩やかに傾斜しており、溝の底は割石を敷き詰めた非常に丁寧な造りで、庭園など特別な空間に繋がる水路と考えられます。



米蔵建物の基礎



石組水路

ダイヤモンド大山とオレンジロード

米子城跡では、毎年2月20日頃と10月22日頃に、大山の山頂から日が昇る「ダイヤモンド大山」、5月と7月から8月には中海に映る夕日の道「オレンジロード」を観ることができます。



天守台から見たダイヤモンド大山



本丸から見る中海に浮かぶオレンジロード

米子城関係年表

時代	年号 (西暦)	出来事
戦国	応仁元年 (1467年)	このころ、山名教之の配下 山名宗之 (宗幸) が米子飯山砦を築いたと伝わる。
	大永4年 (1524年)	出雲の尼子経久、伯耆に攻め入り米子城を従える。
	永禄5年 (1562年)	このころ米子城は毛利氏によって制圧される。
安土桃山	天正19年 (1591年)	東出雲・西伯耆・隠岐の領主 吉川広家が米子湊山に築城開始。
	慶長5年 (1600年)	関ヶ原戦いの結果、吉川広家は周防国岩国へ転封。 中村一忠が伯耆国18万石の領主となり駿河国から尾高城に入る。
	慶長7年 (1602年)	中村一忠が尾高城から完成した米子城に移る。
	慶長8年 (1603年)	11月14日、中村一忠が家老横田内膳村詮を誅殺。 横田村詮の家臣ら抵抗し、出雲富田城主 堀尾吉晴の応援で鎮圧。(米子城騒動)
江戸	慶長14年 (1609年)	中村一忠が20歳で急死し、中村家が断絶する。
	慶長15年 (1610年)	美濃国黒野城主 加藤貞泰が伯耆国会見・汗入郡6万石領主として米子城主となる。
	元和元年 (1615年)	幕府が一国一城令を発し、伯耆国では米子城以外が廃城される。
	元和3年 (1617年)	加藤貞泰、伊予国大洲に転封。 因伯の領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預り(3万2千石)となる。
明治	寛永9年 (1632年)	池田光仲が因伯の領主となり、以後、筆頭家老荒尾氏が代々米子城預りとなる。
	明治2年 (1869年)	米子城が藩庁に引き渡される。
	明治5年 (1872年)	米子城が、土族に払い下げられる。
	明治6年 (1873年)	城内の建物が売却され、数年後、取り壊される。



米子市立山陰歴史館

四重櫓の鯨や米子城天守の模型など米子城にまつわる歴史資料をはじめ、鉄道や民俗資料など米子の歴史を物語る様々な資料を展示しています。

入館料 常設展無料 企画展・特別展は別途
開館時間 9:30～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週火曜日又は祝日の翌日 12/29～1/3

所在地 鳥取県米子市中町20

TEL 0859-22-7161

FAX 0859-22-7160

E-mail saninrekishikan@dear.ne.jp

HP <http://yonagobunka.net/rekishi/>



「ストリートミュージアム」のアプリは、右のQRコードを読み取ってダウンロードすることができます。詳しくは、「米子城 VR」と検索して下さい。



交通アクセス(米子城跡柁形まで)

【路線バス】「米子駅」から だんだんバス(歴史コース)に乗車
「米子城前」下車 柁形まで徒歩約3分

【徒歩】「JR米子駅」より約15分

【車】「JR米子駅」より約5分

駐車場/米子城跡三の丸駐車場をご利用ください。
(柁形から湊山頂上まで、徒歩20分程度かかります。)

問い合わせ先 米子市文化振興課

〒683-8686 鳥取県米子市東町161番地2

TEL: 0859-23-5438

FAX: 0859-23-5414

Email: bunka@city.yonago.lg.jp